



休日の朝のできごと



ある日曜日の朝、子どもづれの主婦の方から、男性がアパート最上階の踊り場で1人ぶつぶつと話し困っているようだ、との連絡が入った。早速行ってみると作業服で赤い顔をしたかなりの高齢の方が、階段に座って独り言を言っている。どうしましたかと聞いてみると、部屋の鍵がなくなったみたいで部屋に入れないとの事。このアパートは入居時にすべての合鍵を入居者に渡すので一人暮らしの自分以外に鍵を持っている人はいないとの事。お酒を飲みましたかと聞いても今日はまだ飲んでないしスーパーで買い物をしてただけで落とした記憶もないとか。

スマセンと言いながらポケットのあたりを触らせてもらうが鍵は無さそう。管理人に事情を説明して非常時の近親者の連絡先を聞いて電話をしたのだが、急に休日の午後に来てと言われても動きが取れないし、当然鍵は持っていない、との事。

鍵屋に来てもらって開けて貰うしか手がないと思うが、お金の件はどうするか。どうしたら良いのか困っていた、ちょうどその時！下の歩道を民生委員のMさんが歩いていたので、急いで呼び止めて状況を話した。すると、“待っときな”と言って飛んできてくれた。

その後、Mさんの協力により、なんと鍵は下着の中から見つかり、少しフラフラしながらもご本人は安心して自分の部屋に入ってしまった。心配されたご家族が書いたのだろうか、チラリと見えた玄関ドアの内側の張り紙には、“おじいちゃん！一人ではなるべく外に出ないでネ”とやさしい文字で書かれていた。

民生委員のMさんにお礼をし、ほっとして帰宅する。

地域の見守りや地域住民の支え合いの大切さを改めて感じた、休日の朝であった。

館報編集委員 K

幸よ、来い…



30 数年前の事 南極大陸の遥か上空にアフリカ大陸程の穴があいてる(オゾンホール)と職場で話をしたら同僚たちは興味なさそうに「そうなんだ～」 「そんな事気にしていてもね～」と冷ややかな視線を浴びたものだ——あれから天変地異とまでは言わないが地球温暖化の様相は顕著になり、この数年の夏の暑さは毎年更新…温暖化の影響もあると当然の様に人々の口に上がる事となった。オゾンホールが直接的な原因となる事由はないとの事だが、影響を与え合っているのは事実らしい。話は戻るが、オゾンホールの話をした際冷ややかな視線であった同僚は、今ではその手の話に食いつきが良く、「人間の行動が自然環境にまで影響する」とまじめな面持ちで話すのである。意識の変化を感じる——これは大変な事だ！意識の変化をもたらすほど現実として受け入れざるを得なくなっているという事なのではないだろうか！?

本年、正月の祝いムードの中、能登に大地震がきた。

帰省した方…それを心待ちにしていた方…そんな方々の中にも犠牲となった方がいたらしい。

自然環境の変化、地震、そして戦争…いつ何が起こるか読めない時代である事は間違いないように感じる。それでも来る年は良い年であるよう、温かな気持ちになる私なのです。

館報編集委員 O